

# 家庭から始める省エネ型ライフスタイル

私たちの暮らしが便利で快適になっていく一方で、水質汚濁、ごみの増大、地球温暖化や酸性雨など、環境は大きなダメージを受けています。次の世代に美しい地球を伝えていくために、一人ひとりが今の暮らしを見直し、自然と共生する豊かな生き方を実践しましょう。

## ●購入するとき...

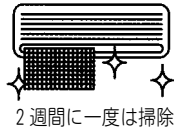
【グリーン購入の商品を買う】



☆環境にやさしい商品か、再生品かを確かめて買いましょ。☆環境にやさしい商品を取り扱っている店舗を利用しましょ。

## ●使用するもの...

【賢く使用する】



☆家電製品などは、こまめに手入れをして、エネルギー効率を上げましょ。☆温水器など、太陽エネルギーを利用して熱エネルギーを節約しましょ。

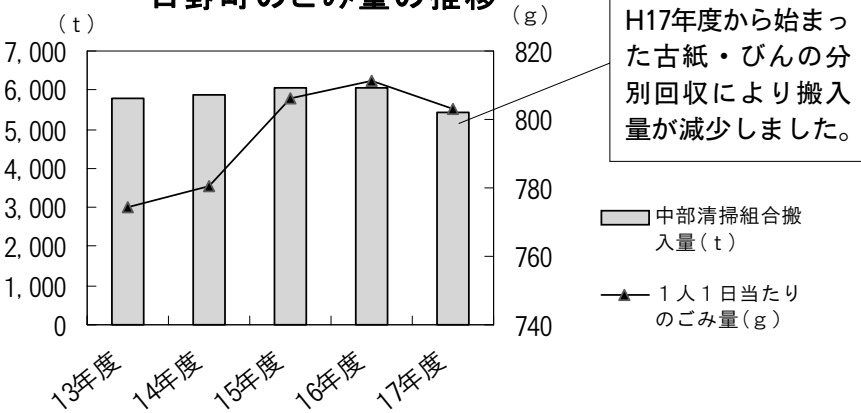
## ●処分するもの...

【ごみの減量に努める】



☆家電製品などは、販売店に持って行き、修理してもらいましょ。☆リサイクル可能なものはごみではなく、分別回収に出しましょ。

日野町のごみ量の推移



◆住民課 生活環境交通担当  
☎ 6578 有線 7784

## 感雑向綿

日野町長 藤澤直広

「平成の大合併」が一段落しました。改めて「日野町は、日野町のままで良かった」と感じています。「合併すれば負担は低く、サービスは高く」と言われてきましたが現実はそのようになっていないようです。合併の有無にかかわらず、どこの自治体でも厳しい財政運営を余儀なくされています。日野町は、顔が見える関係を活かし、これからのまちづくりを進めたいと思います。

は、ともすれば「うっとうしい」こともありすが、住み慣れた地域で人と人の絆を大切に、支え合って生きることこそ大切なのではないのでしょうか。

4月からのNHKの連続テレビ小説は「純情きらり」。時代は太平洋戦争前、主人公の有森桜子は高等女学校へ通い音楽家を目指す一途な女学生。ある日、桜子は下宿人の齊藤先生とともに親友の薫子の兄の出征の壮行会に参加、近所の人たちが「万歳、万歳」の声を上げる中、薫子は「君、死にたもうことなかれ」の横幕を掲げる。すぐさま警察が追いかけ、近所の人たちは石を投げつける。桜子と齊藤先生は「万歳、万歳と送りだしているが、そこは、人が死ぬかもしれない戦場なのだ。」と顔を見合わせます。薫子は、この時代の異常なありさまを小説にすると決意します。「君、死にたもうことなかれ」と思うことが「異常」となる社会にしてはなりません。人と人との絆が大切にされ、平和でみんなが幸せに暮らせる社会の実現こそ大切だと心に深く感じました。

今年、3月末まで放送されていたNHKの連続テレビ小説「風のハルカ」。主人公のハルカは大分県湯布院で生まれ、大阪で就職し、また湯布院へ帰って来ました。「大阪は出会う人は知らない人ばかり、気楽でいいこともあるがどこか寂しい。湯布院は出会う人みんな知り合いばかり、うっとうしいこともあるけどとても温かい」という言葉が印象に残っています。これは、日野町の自律のまちづくりに通じるものです。地域の関係